



NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

# 刀剣組合の底力

理事長 深海 信彦

■組合機関誌『全刀商』(年報)第二十八号が先ごろ発刊された。本誌は組合員・賛助会員等への配布のため、それ以外の方が目にする機会はない(ホームページでも公開)。そこで、巻頭言を再録し、刀剣組合の現況と今後について報告する。

刀剣を生業とする刀剣商が集い、互いに助け合って事業の向上と刀剣商としての社会的地位の確立を目的に設立された全国刀剣商業協同組合(以下「刀剣組合」)は、令和と改元された今年九月で満32年になる。

全国にはさまざまな規模・業態の組合があり、各都道府県が認可する中小企業組合を含めて日本中には約3万7千の組合があり、その傘下には272万5千余社の企業が所属している。

中小企業の振興発展を図るため、組織化を推進し連携が強固になるよう設立された特別民間法人中小企業団体中央会(以下「中央会」)には、これら全国の中小企業の約7割に及ぶ組合が会員として加入しているが、国家が認可している組合は416社である。このうちの270社

が刀剣組合と同じ事業協同組合であり、他には財団法人や社団法人、協会などがある。いずれの組織も認可行政庁の力を借り、業界・団体を発展させ、組合員・会員の利益や多方面での向上を図ることを主な目的としている。しかし、国に設立を認可させるには、その事業の目的が国土交通省・農林水産省・厚生労働省・文部科学省などの行政庁の施策に適合することが必須の条件で、設立するにしても、維持するにしても、多大な努力と継続性が必要であることは言うまでもない。



ら、解散を余儀なくされる組合がある」という信じられないような言葉を聞かされたものである。

しかし、その言葉を裏付けるかのように、令和元年の今日、中央会が統計を取り始めた奇しくも刀剣組合設立の昭和六十二年以降の32年間で、現在ある270の事業協同組合中、八番目に設立加入の古い組合となっている。設立して刀剣組合より長く存続している組合は、「全国医師協同組合連合会」「全国菓子工業組合連合会」「全日本紙器段ボール箱工業組合連合会」他の7社のみであることは驚くに値しよう。

組織の改変や合併、監督官庁の変更に加え、中央会に加入した時期が設立の時期と異なる等の理由があるにせよ、「全国たばこ販売協同組合連合会」「日本中古車輸出業協同組合」などの聞き馴染みのある組合よりも

刀剣組合の方が中央会への加入が早いということは、中小企業の集合体が設立時の状態を維持することの困難さを物語っているとも言える。

希望を持って国の認可を得た団体が、このように離合集散を繰り返す要因と事情はさまざまであろうが、第一に挙げられるのは創立時のエネルギーと情熱が何十年間も、は続かないというところであろう。もちろん、人間の寿命と有用性の変化も見逃せないことではあるが。

この刀剣組合の32年間のうちには、いわゆるバブルの崩壊に象徴される経済事情や、震災・豪雨災害等の天変地異など、多種多様な出来事があり、どの組合も組織運営には少なからぬ影響を受けたはずである。

にもかかわらず、刀剣組合は設立当初から何ら姿を変えず生き残っている。それは、創立時に青年であった組合の実務を担ってきた人たちが、高齢化したとはいえいまだ数名が現役であることに加え、次世代の人も、さらにその次の世代の人たちの中にも、創立時の人たちのエネルギーを感じ、その気力・活力に共感し、組合の必要性と展望

No.49

2019.9.15

発行人 深海 信彦  
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会  
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10  
新宿スカイプラザ1302  
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089  
http://www.zentoshou.com/

第49号編集担当	赤荻 稔	飯田 慶雄
伊波 賢一	大平 将広	嶋田 伸夫
清水 儀孝	生野 正	瀬下 明
網取 謙一	土肥 富康	服部 暁治
松本 義行	冥賀 吉也	持田 具宏

を理解し、継承していくこととする何人もの前途有望な若者がいるからに他ならない。

また、刀剣組合の長年にわたる存続を支えているのが、安定した組合員数である。昭和六十二年の設立の翌六十三年の175名からスタートし、平成八年の151名を最低として平成二十一年の192名を最高とする組合員数は、令和元年までの32年間で平均164名である。ちなみに今年も174名であるが、32年間にわたって組合員数にこれほど増減の少ない組合は他に例はなく、まさに「賦課金(組合費)を払ってでも情報を得たい、事業に参加したい」という意思を持つ刀剣専門業者の実数を示しているものである。

それ故に、組合発展のパロメーターは組合員の数ではなく、質の充実であると言えよう。創立以来刀剣組合は、毎月「定例交換会」と、年に一度の「大刀剣市」を事業の二本柱としてきた。この二つの事業は必ずしも行政庁の認可支援を必要とするものではなく、国の認可なればこそその事業が創立以来模索されてきたが、今年度に入り「刀剣評価鑑定士」認定事業が第三の事業として開始された。「知的財産」にも、「特定技能」にも匹敵する刀剣商の鑑定能力、査定評価能力の資格化を図り、刀剣商全般の質の向上と経済的利益の創出を目指すもので、この事業の実現に向けては、現理事のほぼ全員が何年間も努力を費やしたものである。

この認定事業の試験問題の設問について、公益財団法人日本美術刀剣保存協会、公益財団法

人日本刀文化振興協会、一般社団法人日本甲冑武具研究保存会の監修を得られたことは大きな成果であり、組合の真摯な運営態度が認められたことに他ならない。

この三団体の監修の上に、さらに監督行政庁である警察庁から指導・協力・監修等を受け、広く一般に向けての「刀剣知識検定」(仮称)の資格認定事業が実現されることになれば、刀剣界の社会的認知度はさらに高まり、ひいては刀剣を扱う人たちの地位や生活の向上の一助となることであろう。

組合は組合員の資本金、発言力によって運営が左右されるものではなく、組合員は全員平等で、入会・脱会も、事業の参加・不参加も自由である。互いに奉仕し合って事業を行い、その事業を利用することによって各自の生活の向上を図り、ひいては社会に貢献し得る体質を培って業界全体の地位を確立する、という自主・平等・相互扶助・奉仕を活動の基本理念としている。この目的に沿って、創立時を知る今は高齢となった者と、次世代を担う若者が、互いに協力し合ってより良い刀剣社会の構築を目指している今こそ、他の日本中のどの組合よりも優れて強固な組織ではないであろうか。

我々は、我々の気付かないうちに、長年の努力が実り、他業種に遜色のない、堂々と誇れる業種になりつつあるのではないかと。底力とは、奥深く籠って、いざという時に発揮する強い力と能力であるという。今の刀剣組合がまさにそれを備えている。

我々は、我々の気付かないうちに、長年の努力が実り、他業種に遜色のない、堂々と誇れる業種になりつつあるのではないかと。底力とは、奥深く籠って、いざという時に発揮する強い力と能力であるという。今の刀剣組合がまさにそれを備えている。

人日本刀文化振興協会、一般社団法人日本甲冑武具研究保存会の監修を得られたことは大きな成果であり、組合の真摯な運営態度が認められたことに他ならない。

銀座日本刀ミュージアム  
**泰文堂**  
〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16  
岩月ビル2階  
株銀座泰文堂 代表 川島 貴敏  
TEL 03-3289-1366  
FAX 03-3289-1367  
<http://www.taibundo.com>

**刀剣 高吉**  
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!  
連絡先 090-8845-2222  
代表者 高島 吉童  
東京都北区滝野川7-16-6  
TEL 03-5394-1118  
FAX 03-5394-1116  
[www.premi.co.jp](http://www.premi.co.jp)

刀剣・書画・骨董  
**和敬堂**  
土肥豊久・土肥富康  
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16  
TEL 0258-33-8510  
FAX 0258-33-8511  
<http://wakeidou.com/>

刀剣古美術  
三峯美術店  
**町田久雄**  
埼玉県秩父市野坂町一丁一六六一  
西武秩父駅連絡通路町久ビル内  
TEL 〇四九四一三三〇六七  
FAX 〇四九四一三三〇六七

大阪刀剣会  
**吉井唯夫**  
美術刀剣、小道具、武具類の  
売買、加工及び御相談承ります  
大阪市中央区日本橋二丁目一  
TEL 〇六六六三二二二〇  
FAX 〇六六六四四一五四六四

「大刀剣市2019」は11月1、3日 「現代刀職展」日本刀の匠たち」上位入賞作を同時展示

「大刀剣市2019」は十一月一日(金)〜三日(日・祝)の三日間、東京美術倶楽部において全国の七十三店が出店し、刀剣・刀装具・甲冑武具などの大展示即売会として開催する。

会場では恒例のイベント「我が家のお宝鑑定」「現代刀匠による銘切り実演」も連日行われる。

また本年は特別企画として、公益財団法人日本美術刀剣保存協会(酒井忠久会長)主催の「現代刀職展」と公益財団法人日本刀文化振興協会(吉原国家理事長)主催の「日本刀の匠たち」新作日本刀

「大刀剣市」事前説明会を開催

八月二十三日、東京美術倶楽部において出店者全員を対象とする「大刀剣市」事前説明会が開催された。

八月は組合交換会の日程が変更になっている中、交換会終了後、会場にはほぼ全ての出店者が一堂に会し共同販売事業「大刀剣市」の伝達事項・遵守事項の確認などが行われた。

深海理事長より開会の挨拶が述べられた後、各実行委員会から出店規約、図録制作に関する事項、出店ブース、広告についてなどの説明があった。特に今年から変更になった点として、カタログ掲載ページの出店者本人の確認、返信が必要となったため、手順に沿って協力いただきたいとのことであった。

また、先々は組合のクレジットカード取り扱いも行



出店者が参集した説明会

Table listing exhibitors and their locations. Columns include shop name, location, and contact info. Includes entries like 3F会場, 銀座丸屋, 二明堂, etc.

Table listing exhibitors and their locations. Columns include shop name, location, and contact info. Includes entries like 一文字商会, 江州屋, 福隆美術工芸, etc.

研磨 外装刀職技術展覧会においてそれぞれ上位入賞した力作・研磨の作品を同時展示することになった。

Advertisement for 田中勝憲 (Tanaka Shigenori) featuring contact information, address, and a list of awards.



刀身彫刻師の橋本秀巴氏は8月14日、横浜高島屋7階美術画廊で刀身彫刻作品と、伝統技法を用いた金工細工アクセサリーの展覧会を開催した。写真は17日に同会場で行われたギャラリートーク。(撮影/トム岸田)

組合こよみ(令和元年5~8月)

- 5月12日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第47号編集委員会を開催(再校)。出席者、清水理事長・伊波副理事長・嶋田専務理事・網取常務理事・飯田理事・木村理事・生野理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・深海顧問・土子民夫氏
17日 東京美術倶楽部において第32回通常総会を開催。出席者70名、委任状82名。第8号議案役員改選は理事定年規約見直しのため実施せず
17日 東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加70名、出来高12,180,000円
24日 東京美術倶楽部において「刀剣評価鑑定士」第2回認定試験に向けて試験委員会を開催。出席者、網取常務理事・大平理事・冥賀理事・土子氏
27日 新橋プラザビルにおいて緊急理事会を開催。出席者、清水理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・嶋田専務理事・佐藤常務理事・網取常務理事・飯田理事・大平理事・猿田理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・持田理事
28日 清水理事長と嶋田専務理事が横浜地方裁判所に出張査定
6月4日 組合事務所において定年制の改定にかかる賛否投票の開票作業。立会人笠原泰明氏・大平将広氏・逸見税理士・清水理事長・嶋田専務理事
4日 清水理事長・嶋田専務理事・土子氏が「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」幹事会に出席のため自民党本部を訪問
10日 東京美術倶楽部において臨時総会を開催。出席者33名、委任状60名。第8号議案役員改選の件で選挙を実施し、清水儀孝・伊波賢一・土肥豊久・飯田慶雄・吉井唯夫・佐藤均・嶋田伸夫・網取譲一・深海信彦・服部暁治・冥賀吉也・生野正・大平岳子・瀬下明・松本義行・持田具宏・猿田慎男の17氏が理事に選ばれた。互選により深海氏が理事長に就任。その後、第1回理事会を開催
17日 東京美術倶楽部において組合交換会を開催。参加54名、出来高13,150,000円
17日 東京美術倶楽部において「刀剣評価鑑定士」第2回認定試験を実施。受験者7名
17日 東京美術倶楽部において『刀剣界』第48号編集委員会を開催(初校)。出席者、深海理事長・服部副理事長・清水専務理事・網取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・冥賀理事・赤坂監事・土肥富康氏・土子氏
26日 全国中小企業団体中央会の関口・曾原両氏が深海理事長を訪問
27日 組合事務所において『刀剣界』第48号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・生野理事・瀬下理事・持田理事・土子氏

「大刀剣市」実行委員会 刀装具の撮影現場から
七月二十三日(火)、新橋四丁目の新橋プラザビル十四階の東京刀剣商組合で撮影は進んでいく。その名品の内容は「大刀剣市2019」カタログの発行を待っていたかとして、交換会にも使うこの一室をスタジオにも使おうという意向が、機材側が間違っていないかと念を二回以上押しつけてくれるのが常だ。それでも起きてしまうようなエラー。これがわれわれ人間という失敗をよくしてしまう動物が司る現場というものに他ならない。

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・レポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

# ある刀屋の履歴

飯田慶久  
(飯田高遠堂)

## 第三回 渡辺コレクション

戦後の愛刀家どなたが日本一かと問われれば、私は渡辺誠一郎氏と直ちに答えるだろう。

平成三年に、国宝の名物三日月宗近、同じく国宝の名物亀甲貞宗、重要文化財の名物切刃貞宗、同名物蜂屋長光、同名物福島兼光、同名物狐国吉、同名物岩切長藤藤四郎など十三振を東京国立博物館に寄付された方である。当時の評価額は二十億円と言われた。

コレクションには徳川御宗家の刀が多く含まれていた。渡辺氏がなぜそれほど名刀を持っておられたのか、実は知らなかった。その

の辺の事情を教えてください。は、佐野美術館の渡邊妙子先生だった。

渡辺誠一郎氏の父上・三郎氏は「特殊鋼の父」とも呼ばれ、大正四年(一九一五)に日本特殊鋼(現大同特殊鋼)を設立、主に軍需用鋼板を生産して成功された。日本古来の特殊鋼である玉鋼を鍛えた刀剣にも早くから関心を持ち、愛刀家として刀だけを展覧する美術館まで構想していたという。

昭和二十年(一九四五)八月の敗戦で、状況は一変した。軍需産業で蓄えた資産は没収される可能性が高く、一方の徳川家でも代々伝えてきた美術品が接収されてしまつてを危惧していた。渡辺三郎氏は事態を憂い、日本刀を自ら

の手で守ろうという使命感も相まって、徳川家の名刀を購入した。進駐軍上陸から間もない九月のことであったという。

三郎氏は二十六年に亡くなられ、その後、コレクションは社業に就いた誠一郎氏によって守られ、亡母の五十回忌に際して広く公開されることを願う東博に寄付されたのである。この功績は偉大であり、刀剣界において今後長く語り伝えていかなくてはならないだろう。

渡辺誠一郎氏の膨大な刀剣コレクションは、東博の小笠原信夫先生と刀剣博物館の田野辺道宏先生によってABCDの四段階に分類された。東博に寄付されたのが、この中で一番上のAクラス十三振だったのである。

## 組合交換会 支える人と支えられる人と

組合主催の交換会は毎月一回、盛夏の時期を除き十七日に東京美術倶楽部で行われています。全国から組合員が持ち寄る刀を競り合

って売買します。猛暑の気配が迫る七月十七日も各地から多くの組合員が集まりました。空港から駆けつける方、新幹線から来る方、本当にご苦労

です。発句は組合の理事が交代で務めますが、今日は深海理事長が務められ、「さあ始めましょうか」の掛け声と短い挨拶の後、早速競りに入りました。競人の役は飯田慶久理事長が務めます。

市場の習慣で、始まりと終わりに全員の揃って手締めが行われます。組合交換会一本締め(三回・三回・三回)です。一般の方には馴染みがないでしょうが、

手打ちによって締める。これは大変面白い習慣だと思えます。この主旨は、行事を取り仕切る者があまりに安全と成功を祈願する、締めでは無事に終了したことを協力者に感謝することにあるのだと思

います。売りの順番は市場によりくじで決めることもありますが、組合では来場順になっており、午前十時の開始に備え、早朝から会場の前に並ぶ姿が見られるのはそのため

です。遠方から来られる会員の中には都内に前泊され、朝一番に並ぶ方もおられます。発句すなわち最初の値付けは非常に難しく、品物を見る確かな目

が求められます。安すぎる発句では値が上がりやすく、また高すぎた場合にはお客がつきません。痒いところに手が届くような、お

くつと皆を納得させる発句ができるには長い年月と経験、そして才覚が必要なのです。昼休みは別室に移り、みんな弁当を頂きます。毎回種類かの弁当が用意され、お好みを選びます。この時間も交換会の楽しみの一つで、お茶を注ぎ合いながら商売上の情報交換やら、趣味のゴルフに話の花が咲きます。昼食を終えた会員は、本日の最後に競りが行われる組合買い付け商品を入念に検討しています。

これらの生ぶ品は、清水専務理事・嶋田常務理事・服部副理事長ら組合の役員が遠く足を延ばし、組合のために集めた品々なのです。ご自身の仕事を休んでお客さまを訪ね、お取引いただいて持ち帰った品物であることを、皆さんはご存じでしょうか？

### 2018年度組合査定・買い入れ状況報告

日付	査定・買取	種別
4月2日(月)	査定	刀槍8振 短刀拵1点
	買い入れ	刀2振
5月28日(月)	査定	刀4振 脇指1振
	買い入れ	脇指1振
6月4日(月)	出張査定	刀剣 甲冑 多数
6月7日(月)	査定	刀3振
7月3日(火)	出張査定	刀4振 日本美術刀剣保存協会へ
	査定	刀3振
7月5日(水)	買い入れ	刀4振
	査定	刀1振
7月12日(水)	査定	刀3振
7月23日(月)	査定	刀1振
	買い入れ	刀9振
7月31日(火)	査定	刀8振
8月31日(金)	査定	刀1振
9月13日(水)	査定	刀1振
	買い入れ	鐔 目貫 他 11点
9月20日(水)	査定	刀1振
9月27日(水)	出張査定	刀3振 脇指1振
10月4日(水)	査定	刀2振
	買い入れ	刀2振
10月11日(水)	出張買取	刀3振 短刀1振
10月19日(金)	査定	刀3振
11月16日(金)	査定	大刀剣市 刀 38点 刀装具等
	買い入れ	大刀剣市 刀 14点 刀装具等
11月17日(土)	査定	大刀剣市 刀 26点 刀装具等
11月17日(土)	買い入れ	同 12点

(生野正)

昨年より「大刀剣市」お宝鑑定会が再開されました。評価・査定・買い入れには理事17名、全員が担当しました。通常の事務所での査定は清水・服部・嶋田が主に担当しました。

日付	査定・買取	種別
11月18日(日)	査定	大刀剣市 刀 11点 刀装具等
	買い入れ	大刀剣市 刀 15点 刀装具等
11月29日(木)	買い入れ	刀5振
12月4日(火)	買い入れ	刀3振
12月21日(金)	買い入れ	刀1振
1月21日(月)	査定	刀1振
1月29日(火)	出張査定	刀5振
1月31日(水)	査定	刀6振 日本美術刀剣保存協会へ
2月4日(月)	買い入れ	刀2振
2月18日(月)	査定	刀1振 日本美術刀剣保存協会へ
3月4日(月)	査定	刀1振
3月8日(金)	出張査定	刀3振 蒔絵箱
3月14日(木)	買い入れ	刀5振

この中で、やはり重文の助真が一番の名刀だったが、無冠の清磨や正秀など新刀・新々刀も皆級品であり、渡辺コレクションが質量ともに群を抜く水準だったことが得心された。多忙だったが、私にとっても充実した二年だった。

この中で、やはり重文の助真が一番の名刀だったが、無冠の清磨や正秀など新刀・新々刀も皆級品であり、渡辺コレクションが質量ともに群を抜く水準だったことが得心された。多忙だったが、私にとっても充実した二年だった。

この縁で、渡辺誠一郎氏には平成十三年に亡くなられるまで友人を連れ、目白の店にしばしば足を運んでいた。日本一の愛刀家においていただけたことは、刀剣商としてこの上ない光栄であった。

「〇億円なんですけど」と申し上げたら、先生はすくにあさひ銀行の松山支店長を呼んでくださった。「私が保証するから、この男に〇億円融資してやってくれ」と先生が言ってくたさると、松山支店長は「東京の目白支店長は私と同期なので、連絡してすぐにお店に伺わせます」ということになった。

その後、松山で刀を処分された方がいると、しばしば呼んでいただいた。ある時、三力所の愛刀家宅にご案内いただき、買い入れを行った。先生には一日中お付き合いいただき、その上、道後温泉にまで案内していただきました。

かくして国宝・重文・重美など数多くの名刀を扱うことができたのだが、容易にできたわけではない。それだけの刀を一度に買い取る現金は無論、ない。納める先は決まっても、買い手である林原から前借りし渡辺家に支払うわけにもいかない。

私はその日のうちに帰宅したが、目白支店長は翌日来てくれて、融資の話はたちまちまとまった。私はこのときほど、日ごろの人の付き合いと信用の大切さを痛感したことはなかった。宮部先生のおかげで、渡辺家の刀を林原に無事にお納めできたのである。

露大風呂に浸りながら、私はつい「私のために、先生はどうしてここまでしてくたさるのでしょうか」と聞いてしまった。すると先生は「飯田君、俺は君のことが好きなんだ。だから、してあげているんだ。言っておくが、謝礼など一切受け取らんからな。これからも男同士の付き合いだ。立派な刀剣商になってくれよ」と言いながら、風呂を出て行かれた。私は涙で目の前が曇り、先生の後ろ姿が見えなかった。

宮部金尚先生は今年一月、八十九歳で永眠された。合掌。

宮部金尚先生は今年一月、八十九歳で永眠された。合掌。

**日本刀 販売 買取 委託**

**e-sword** (株) e-sword (イーソード) 平子誠之

〒350-1115 埼玉県川越市野田町1-4-19 1F  
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407

<http://www.e-sword.jp>

日本刀 イーソード 検索

mail:info@e-sword.jp

# 刀 剣 界

## 質問箱

### 第二回・末備前

回答者 ● 冥賀 吉也



■ 審査に出したら「無銘末備前」として合格したのですが、刀工銘でなく、また流派極めでもありません。室町時代後期の備前国で製作された刀剣ということでしょうか、備前にはあまりに多くの刀工があり、年代的にも範囲が広すぎてよくわかりません。「末備前」と「末備前極め」の刀剣について詳しく教えてください。

それでは末備前について一緒に学んでいきましょう。

まず室町時代の備前刀は大きく次の三つに分類できます。

- ① 応永備前：盛光・康光・実光・師光ら
- ② 永享備前：経家・家助ら
- ③ 末備前

一般的に末備前の年代は、応仁の乱(一四六七～七七)以降、いわゆる戦国時代に入ってから、天正十八年(一五九〇)吉井川の大洪水によって備前鍛冶が全滅してしまう間の二三年間を指しています。

次に末備前の代表的刀工ですが、寛正則光や祐光のように応仁時代を挟んで活躍している刀工もいます。彼らを末備前の先駆者に入れることが多いです。

前期の代表刀工としては、右京亮勝光・左京進宗光・彦兵衛尉忠光・法光・賀光

中期の代表刀工としては、次郎左衛門尉勝光・彦兵衛尉祐定・与三左衛門尉祐定・平右衛門尉貴光 後期の代表刀工としては、源兵衛尉祐定・次郎九郎祐定・新十郎祐定・五郎左衛門尉清光・孫右衛門尉清光・十郎左衛門尉春光 等々が挙げられます。

室町後期には長船の町に「鍛冶屋千軒」と言われるほど大勢の刀工が集まってきました。末備前の中にあつて『日本刀銘鑑』には祐定を名乗る刀工が六十八名も載っています。

次に末備前の特色についてですが、太刀が廃れて打刀が主流となりました。しかも片手打ちとなり、寸法が極端に短めとなり、加えて茎の長さも短くなります。

姿の特徴ですが、重ねがやや厚くなり、先反りが強く、鎧地を大きく盗んだ姿です。

刀の長さは、応仁・文明ごろは二尺前後ときわめて短く、その後は年代が下るにつれてわずかず長くなっていきます。

永正ごろまでは二尺一寸あるいは二尺二寸とやや短めです。天文ごろになると二尺二寸五分あるいは二尺三寸前後となり、永禄・元龜・天正に至ると二尺三寸五分～二尺四寸と、やや長寸に変化してきます。当然、寸法に比例して茎の長さも延びていきます。

末備前を鑑定する場合、刃長もその時代を知る重要なポイントと言えます。

短刀の長さも刀同様に変化していきます。

応仁前後は六寸前後と極端に短く、時代が下るにつれて七寸前後、八寸前後と移り、天正年間には九寸前後のものが多くなります。ただし、短刀の場合、六寸前後の刃長でありながら茎は長く、使用目的に合わせて作られています。

両刃の短刀は戦国時代に初めて現れました。右手指に使用したとも言われ、この時代を物語っています。なお、鎧通しと呼ばれる重ねの厚い、ふくらの鋭くなった短刀姿も流行しました。それらの寸

法の変化は前述の通りです。

刃文は、互の目が割れていわゆる蟹の爪乱れ(複式互の目)のものが多いのも、末備前の特徴です。沸ついで沸がちの広直刃、大湾れ、皆焼なども見られます。

地鉄は応永備前よりも強いものがある、地に映りが無いものもあります。

帽子の焼きは全般に深く、返りが長く、棟焼きとなったものもあります。

注文打ちには、腰に濃厚な俱利伽羅や欄間透かしなどの彫刻も見受けられます。

茎の形はずんどうで、先は丸い栗尻となり、鑢目は浅い勝手下がりが多く見られます。特別な注文打ちの場合は、長銘で俗名を入れる時にも注文主の名を入れることもあります。当然、裏年紀も入れられます。

しかし、数打ち物と称されるものには、単に「備前長船祐定」などと切られています。

ここで注意しなければならぬのは、末備前の中にあつて特に前期・中期ごろのものまでは、俗名が入っていない作品であっても注文打ちである場合が多く、名品もたくさんあります。

俗名が入っていない作品でも重要刀剣指定品がきわめて多いことが、そのことを如実に物語っています。

例えば、則光・祐光・勝光・宗光・忠光・祐定・法光・賀光・能光・在光・治光・幸光などで俗名が入っていない刀が重要刀剣に指定されています。

末備前の刀は、愛刀家にとって特に人気の高い存在でもありません。約二三年間に、与三左衛門尉祐定というスパー刀匠をはじめと数多くの名工たちが名刀をたくさん製作しています。重要文化財四口、重要美術品十一口のほか、特別重要刀剣・重要刀剣は

数百口に及んでいます。

しかし、末備前には注文打ちの名品ばかりではなく、時代の要求によって数打ち物と称される刀も製作しました。

年代的に永禄・元龜・天正ごろは、桶狭間の戦・川中島の合戦・三方ヶ原の戦・長篠の戦・小牧長久手の戦等々、日本中が常に戦渦の中にあり、刀剣の需要がピークに達した時代でもありました。

この時代には個人の製作から工場での生産になり、一族の数人、多い集団では四十人にも及ぶ人々が屋号的に同名を用いて製作した刀剣類もあります。

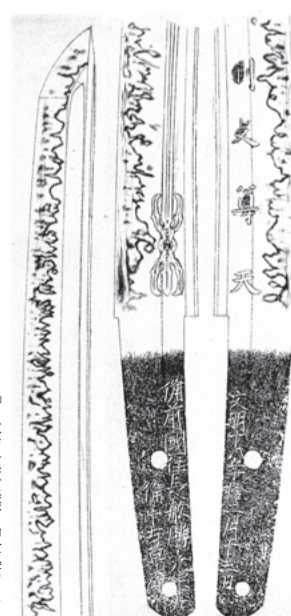
数打ち物と言うと、ややもすると粗悪品と思われるがちですが、決してそうではありません。それは、それらの刀剣が江戸時代に長船の名刀と尊重され、立派な拵が添えられて現在に至っていることからも納得されるでしょう。

さて、ご質問の「末備前極め」の刀剣とは何かですが、前述のように、永禄・天正年間に備前鍛冶によって製作されたものと考えてよろしいのではないのでしょうか。

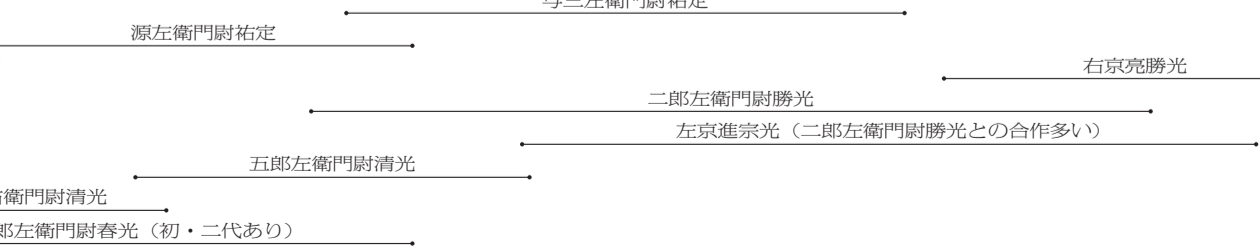
この時代の刀は二尺四寸前後とやや長寸のものが多く、磨り上げられたものも多く見えます。祐定や清光・春光など同名の刀工が存在し、その人たちによって製作された刀剣で、後に磨り上げられて無銘になった場合、個名極めが難しく、「末備前」として極めざるを得ないものを総称して極めたものと思います。

## 末備前の変遷

年	元	名	事	刀	備前
1457	長禄元(3)	寛正(6)		○	備前国長船住左衛門尉藤原朝臣則光 於作州鷹取庄黒坂造 鷹取勘解由左衛門藤原朝臣泰佐打之 長禄三年己卯十二月十三日 刃長二尺二寸五分
1467	文正(1)	応仁元(2)	元応仁の乱	○	備前国住長船勝光宗光 備中於豊野作 文明十八年拾二月十三日 刃長二尺八分
1487	長享元(2)	延徳元(3)		○	備前国住長船勝光宗光 備中於豊野作 文明十九年二月吉日 刃長一尺七寸七分
	文龜元(3)	永正元(7)		○	備前国住長船忠光 延徳二年二月日 刃長二尺六分
	明応元(9)			○	備前国住長船三左衛門尉藤原勝光 朝風 永正元年八月吉日 松卜昌俊所持 刃長二尺
				○	一期一腰作之 佐々木伊予守 刃長一尺一寸三分
				○	備前国住長船与三左衛門尉祐定 永正十八年八月吉日 刃長二尺二寸三分
				○	備前国住長船与三左衛門尉祐定 山中鹿介脇指也 鯉江左京亮所持之 刃長二尺一寸二分
1527	大永元(7)	享禄元(4)		○	備前国住長船与三左衛門尉祐定 天文四年二月吉日 刃長二尺三寸二分
				○	右同銘 天文四年八月吉日 刃長二尺二寸四分五厘
				○	右同銘・同年紀 刃長二尺三寸四分
				○	右同銘 天文七年二月日 刃長二尺二寸二分
				○	備前国住長船次郎九郎祐定 為浦上左四郎政宗作之 天文十二年二月吉日 刃長二尺二寸一分
1543	弘治元(3)	永禄元(2)		○	備前国住長船源兵衛尉祐定 永禄十二年八月日 刃長二尺三寸六分
				○	3 種狭間の戦い
				○	4 川中島の合戦
				○	元龜川の戦い
				○	3 三方ヶ原の戦い
				○	3 長篠の戦
				○	4 信長、安土城に移る
1575	天正元(9)			○	10 本能寺の変
				○	11 賤ヶ岳の戦い
				○	12 小牧長久手の戦い
1582				○	18 吉井川の大洪水
1587	文禄元(9)			○	
1592				○	



重要文化財 四口  
重要美術品 十一口



『日本刀重要美術品全集』より

# 「登録証問題」を考える 20

## 事例 30

### 登録証・台帳の記載ミスと現物確認

過日、買い取り希望で現代刀が持ち込まれた。太刀として鍛造され、昭和五十九年十月二十五日に北海道教育委員会で登録証が交付されている。種別「たち」、銘文は「(表) 昭和五十九年六月吉日 / (裏) 仙台百理藩以北の国砂鉄源安秀作之六十八才作」とある。偽真のない登録証である。

念のため、北海道教育委員会に問い合わせると、「台帳の記載と異なりますね」と言う。よくよく聞くと、「銘文は合っているが、表裏逆になっています」とのこと。そして「東京都に資料を送りますので、都庁で現物確認をなさるべきかと」と。「こちらまでいらして、現物を見てもらえば記載ミスは明らかですよ」と言う。 「いえ、東京まで出張はできませんし…。現行制度では現物確認申請をしていただくのが妥当かと…。」 마침めで淡々とした口調であった。

太刀として登録されたのであれば、登録証の記載は、「(表)」に「佩」を補って「佩(表)」とし、「仙

台百理…」裏も同様に「佩(裏)」として「昭和五十九年…」とするべきだった。一方、台帳は単に表裏の記載なのである。これも一見正しいのだが、記載の仕方は正しいとは言えない。登録証も台帳も記載の仕方がちよつとずつ間違っているのである。

これは登録審査の関係者、特に事務担当が、太刀と刀の違いについての理解が浅かったことが原因なのではなからうか。

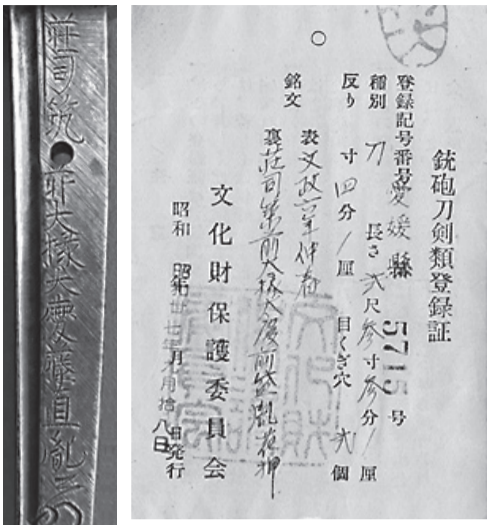
太刀と刀の違いはどこにあるか。

「刃を下にして置いたときに、銘字が見えるのが太刀、刃を上にした時に銘字が見えるのが刀…」 遠い昔、大山祇神社で、今はじき大学の恩師が「君らにわかりやすく言えば…」と言いつつ説明してくださったことが懐かしく思い出される。しかし例外もある。刀なのだが、銘字が表裏に来ない例としては、例えば大慶直胤などが挙げられよう。

直胤といえは、この登録証の間違いは何と言ふべきなのだろう。

「在司筑前大掾大慶藤直胤(花胤花押)」と書いている。某の錯は浅く、いまだ白く輝いており、銘字は実に鮮明である。どうすればこういう読み方になるのだろうか。

現行の制度では東京都に資料を送しても、現物確認をして、訂正交



直胤作刀の茎と登録証

を、訂正交

付という段取りにならざるを得ない。

それにしても、単純な間違いが原因で、数週間以上の時間がかかってしまうというのは何ともやりきれない。「あー、またか!」と思ってしまう。都庁での現物鑑定、やっていることは至極簡単なことである。が、電車で行って、受付を済ませ、順番を待ち、鑑定してもらい、また電車に乗って…ほぼ半日仕事である。予約制で以前よりは簡便になったとはいえ、決して楽ではない。

話を元に戻す。問題の登録証は、安秀刀匠が、昭和五十九年十月十五日、自作を持って、北海道教育委員会主催の登録審査会に赴き登録したことは間違いない事実である。しかし、この刀匠が渡された登録証の記載をチェックし、「太刀だから、(表)とあるのは、厳密には佩(表)って書くべきではないのではありませんか?」と質問してくれら、そもそもこういう間違いは発生しなかったのかもしれない。いや、毎度毎度の登録で、そんな疑念すら持たなかったのかも知れない。

こんな単純なミスだが、某の写真があれば、照合することにより、すぐに解決する。資料を回送して現物確認なんて不要である。しかし、写真資料なども昔も無い。確かに三十五年前なら、撮影・現像・プリント・保存という作業は楽ではなかったと思う。特にデータの保存・保管はスペースの問題もあって大変だろう。

しかし、デジタルデータの現代なら、撮影もデータ保管も比較的容易である。

登録の際、当該刀剣をデジタルカメラで撮影し、データを保存しておくことを提案したい。既にすでに実施している県もあるのので、情報交換をして取り組んでほしいと思う。

(登録証問題研究会)

# 第十二回「刀職者実技研修会」を開催

公益財団法人日本刀文化振興協会

今年で第十二回となる公益財団法人日本刀文化振興協会(吉原国家理事長)主催の「刀職者実技研修会」が、坂城町鉄の展示館において開催されました。

日程は、文化庁や経済産業省などから後援を頂いている「新作日本刀・研磨・外装・刀職技術展覧会」の最終日程に合わせ八月二十三〜二十五日の三日間です。

展覧会は従来からの経済産業大臣賞(作刀部門)に加え、今年度から各部門の最優秀作品の中から最も優れた作品に文部科学大臣賞が授与されることとなり、今回は研磨部門の水田吉政氏が受賞し、大いに注目を集める中、多くの方に全国各地より来館いただき、誠にありがとうございました。

期間中、モスクワのストロゴノフ工芸アカデミー金工部門の教授と、古武術伝流「凜照塾」塾長一行の視察訪問があり、今後、日本刀文化を通じて日露文化交流に提携していく運びとなりました。

また、最終二日間には並川平兵衛商店様に特別出張販売をしていただき、主力商品である天然砥石の内曇砥・鳴滝砥・細名倉砥など、普段目にすることができない貴重なお品を直に拝見でき、研修生も来館者も大変勉強になりました。

同時に小刀作り体験の方もご参加いただき、そのほかディアゴスティニ「週刊日本刀」の取材があるなど忙しい三日間でしたが、今年度より就任した若い講師の方々にも活躍願いの大変活発で充実した研修会となりました。

●研修講師  
 (作刀部門) 宮入小左衛門行平・河内一平・根津啓  
 (研磨部門) 本阿彌毅・小野敬博・森井鐵太郎・渡部恒継・阿部一紀  
 (白鞘部門) 剣持直利・森隆浩・森井敦央  
 (白銀部門) 宮島宏・宮下武・松本豊(講師補助)  
 (柄巻部門) 岡部久男・平井重治(講師補助)

以下は、研修参加者から寄せられた感想です。  
 ●数年前に作った小柄小刀を仕上げる

ことを目標として、昨年度に引き続き研磨部門を受講しました。

今回のメインは仕上げ研ぎの地艶と刃取りで、特に難しかったのは、姿全体と刃文のバランスでした。講師の方々に、刃取りのコツを細かく教えてもらい、研磨の進捗をその都度チェックしていただいたので、集中して研ぐことができました。そして、足掛け五年、とうとう完成しました。

細・白鞘・研磨を自分自身で仕上げることができ、(〇〇%)ではありませぬが、とても感慨深いです。

研修会を通じて、講師の方々の芸術的で細やかな技と知恵に接することができたこと、また各工程を少しでも経験できたこと、それまでとは違った視点から刀の奥深さを感じるようになりました。

気さくに教えてくださった講師の皆さま、一緒に受講した研修生の皆さま、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。(下村登子)

私は昨年に続き、白鞘の技術研修を受講しました。昨年の講習最終日に課題を頂き、今年の講習でその課題を評価していただく、というものです。

今年の講習は、その良くないところを再度基本から教えていただく内容となりました。研修目的が明確になり、その技術を基本から確実に教えていただける、また道具や材料の不備不足なども十分に援助いただくことができました。

この度初めて、白鞘部門に参加させていただきました。独学で一年ほど練習した程度で、ほとんど鞘の知識も経験もありませんので、少しでも基礎を学べればという思いがありました。

多く、この研修を無駄にしないためにも自分に自分で考え、繰り返し稽古することが大切だと思っております。お忙しい中、お世話いただいた講師の皆さま、協会関係者の皆さまに感謝申し上げます。(橋本幸律)

●今回で三回目の柄巻き研修の参加になります。今年こそ紙を入れて柄巻を巻く勉強をしたかったのですが、休んでいるうちに糸の手の運びに自己流の癖がついてしまい、今回の研修会では基本に戻り手の運びを重点的に直しました。

講師の先生から糸の持ち方・糸の逃がし方を教わり、あらためて基本の大切さが身にしみて理解されました。学芸員の資格を持っていた私には日本伝統文化を守りたいという思いがあり、縁があって柄巻きを勉強させていたたいです。

刀には長い歴史がありますが、それに私が少しも携わり、歴史の一角マになるというのは嬉しいようでもあり、恐れ多い気分になります。最後になりましたが、講師の先生方、また鉄の展示館の皆さまに厚く御礼申し上げます。(佐藤枝里子)



各部門の研修生と講師の皆さん

日本刀の  
**江州屋**  
 名品・名刀を販売  
 店主 小暮 昇一  
 〒529-1315  
 滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-11  
 TEL 0749-14212736  
 携帯 090-316217641  
 http://www.goushuya-nihontou.com

アオバ企画(株)  
**高橋一**  
 〒130-0012  
 墨田区大平四一九二-1308  
 TEL 03-3621-2111  
 FAX 03-3621-2111  
 メール aobak@p38.sone.jp

刀剣・小道具・甲冑武具  
 目白 **飯田高遠堂**  
 代表取締役 飯田慶雄  
 〒161-0033  
 東京都新宿区下落合3-17-33  
 TEL 03-3951-3312  
 FAX 03-3951-3615  
 http://www.iidakoendo.com

(株)美術刀剣松本  
**松本 富夫 義行**  
 〒278-0043 千葉県野田市清水199-1  
 TEL 04-7122-1122  
 FAX 04-7122-1950  
 www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑  
 日本の伝統文化を彩る  
 JAPAN SWORD CO., LTD.  
 (株)日本刀剣  
 伊波賢一 Ken-ichi Inami  
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1  
 TEL 03-3434-4321  
 FAX 03-3434-4324

# 刀 剣 界

## NEWS & TOPICS

### 刀剣博物館がユニークベニユーに協力

公益財団法人日本美術刀剣保存協会

去る七月八日、東京観光財団主催のTOYOユニークベニユーショーケースイベントが、墨田区の刀剣博物館で開催されました。東京都では美術館や庭園などの特別感を演出できる施設を、会議やレセプション会場として利用する取り組み(ユニークベニユー)を推進しており、「日本の伝統美」と「近代的な建築物」を持つ刀剣博物館が第一回のモデル会場に選出され、開催に至りました。

当日は外資系・国内企業、在日大使館等関係者約一三〇名が参加され、藤代興里氏、藤代龍哉氏による刀剣研磨の実演、展示室ガイドツアー、和製ジャズ演奏や屋外ライトアップ照明等サプライズな演出を体感していただきました。来年の東京オリンピックでは、隣接する両国国技館がボクシング会場として利用されます。協会は文化財である日本刀の保存・技術



挨拶する志塚常務



刀剣研磨を実演する藤代興里(右)・龍哉の両氏

の伝承に努め、また鑑賞等を通じて国内外の来館者の皆さまが日本刀文化に魅了されるよう、東京都や墨田区と刀剣関係者のご指導とお力添えを頂きながら連携し、企画を検討してまいります。

ユニークベニユー(Unique Venue)とは、直訳すると「特別な会場」でコンベンション(会議)やイベント、レセプションなどにコンベンション目的の専用施設を用いるのではなく、博物館や美術館、城郭など、参加者にサプライズを与えるような会場を用いること。東京都では現在、庭園などの都立施設、美術館や神社仏閣、テーマパークなど多様な魅力を持つ三十八施設を紹介している。

## NEWS & TOPICS

### 全日本刀匠会会長に宮入恵氏が就任

全日本刀匠会ではこのほど任期満了に伴う役員の変更があり、会長には三上孝徳氏(刀匠銘貞直)に代わって宮入恵氏(同小左衛門行平)が就任した。また、9月1日からは次の新体制となり、同会の活動を担っていくこととなった。

なお、関連団体として一般社団法人全日本刀匠会事業部や選定保存技術保持団体(木炭製造)に認定された伝統工芸木炭生産技術保存会があり、近年の全日本刀匠会の多彩な活動を支えるところとなっている。

全日本刀匠会は昭和50年(1975)に発足、今年で44周年を迎える。歴代会長(当初は幹事長)は順に宮入昭平・月山貞一・隅谷正峯・天田昭次・月山貞利・吉原国家・三上貞直の各氏。第4代の天田氏まではいずれも重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されている。

- 会長 宮入 恵  
副会長 宗 正敏  
久保善博 (中国四国地方支部)  
河内一平 (北越信越地方支部)  
常務理事 明珍裕介 (関東地方支部)  
会 計 月山一郎 (近畿地方支部)  
事務局 宮城正年 (北海道東北地方支部)  
理 事 川崎仁史 (関東地方)  
加藤正文実 (東海地方支部)  
木村光宏 (九州地方支部)

## 旅のつれづれに 6

### 御車山祭と高岡城を訪ねる

いささか古い話で恐縮なのですが、ゴールデンウィーク十連休の五月一・二日を富山県高岡市で過ごしました。なぜ高岡かというところ、小生の連れ合いの音楽仲間の故郷だからです。北陸新幹線の富山駅と金沢駅に挟まれたマイナーなところで、仕事でもなければ一生行くことがない駅だなどと思っていました。

まさに令和に改元となった五月一日、新高岡駅に午後一時ごろに着くと、連れ合いの仲間が自家用車で迎えに来てくれました。仲間の家に行き、早速、高岡御車山祭なるものを拝見すると、これはすごい祭だと思ひ、持参していたスマートフォンで調べて



華麗な山車が連なる御車山祭

みました。

御車山祭は毎年四月三十日に宵祭り、五月一日祭礼となる高岡野神社の春季例祭。ここでは山車のことを御車山と呼び、七基の山車が優雅な囃子とともに旧市街地を巡行する。

御車山は天正十六年(一五八八)豊臣秀吉が聚楽第に後陽成天皇の行幸を仰いだ時に使用した御所車を前田利家が拝領したのと言われ、伝えられており、それを加賀藩二代目藩主前田利長が、慶長十四年(一六〇九)に高岡に城を築いて町を開いた際に城下の町民に与え、以来、山町筋と呼ばれる高岡城下十力町が手を加えながら代々受け継いできたものだそうだ。

御車山には桃山文化の面影を残す優雅な装飾が施されている。装飾金具は江戸時代の名工たちの手による作品であり、木部も漆工たちの優れた作品である。七基が揃って巡行する姿は絢爛豪華であり、町衆のエネルギーを示すものと言えよう。

その七基の御車山巡行でトトリを務める御車山こそ、後陽成天皇の御所車の車輪を使用しているのです。他の六基が全て四輪なのに対して、この山車だけが二輪で、車

輪の金具の素晴らしさはまさに安土桃山時代の金工の頂点を示すものです。これを見るだけでも、高岡にきた甲斐があります。

夕食後は、富山県唯一の国宝建造物である瑞龍寺へ参拝しました。前田利長は慶長十年、四十四歳で家督を異母弟の利常に譲り、自らは隠居しました。利長はその後、金沢から富山に移転するが、富山城の炎上を機に高岡に移り、ここに新たに高岡城を築いたのです。三代藩主利常は、利長の創建した法円寺を利長の菩提寺とし、利長の法名瑞龍院にちなんで瑞龍院と改めました(後に瑞龍寺となる)。寺院建築のことは小生にはよくわからないが、国宝とあってさすがに立派なお寺でした。その夜は御車山祭にちなんでライトアップもされており、夜の瑞龍寺も美しいものでした。

翌日は高岡城跡へ行きました。といっても、歩いてすぐ、街の中心地にあります。これは城を核として街が作られているんだろうなと思っただけで、その通りでした。慶長十年、富山城に隠居した前田利長は、四年後の同十四年、富山城が火災で大半を焼失したため、高岡城の築城を始め、同時に城下町の造成も開始した。しかし十九年、利長は死去し、隠居城として使われたのはごく短期間であった。翌元和元年(一六一五)、一國一城令により高岡城は廃城となった。

しかしながら、廃城後も高岡町奉行所の管理下で、加賀藩の米蔵・塩蔵・火薬蔵と番所などが置かれ、軍事拠点としての機能はひそかに維持された。街道の付け替えの際には、濠裏がそのまま残る城址を街道から見透かされるのを避けるため、町家を移転して目隠しにしたといわれる。

また、廃城後に利長の菩提を弔うため建立された瑞龍寺や、周囲に濠を備える利長の墓所自体も高岡城の南方の防衛拠点としての機能を持つものとして配置されたと考えられている。

確かに慶長・元和・寛永期は天下がどうなるか、まだわからない時代だった。徳川が有利になりつつあるが、徳川・豊臣協調でいいのか、それとも戦になるのか、家康はいつまで生きていたのか、そういったことが全くわからない以上、一度築いた軍事拠点を手放すことなどできないだろう。



## 江戸東京博物館

七月下旬、江戸東京博物館を訪れた。JR両国駅を降りると、国技館の奥にそびえ立つ巨大な建物、それが江戸東京博物館である。

「大関ヶ原展」の時には大勢の人が押し寄せて、家康の尚武、三成の智謀に思いを馳せた。今日は平日、しかも雨、また大展示もなく、とても空いていた。

まずは六階へ上がる。常設展である。江戸日本橋を渡ったところにある江戸の町のジオラマは壮観である。芝居小屋、三井越後屋の店舗、長屋、北前船など、展示物はいずれもよくできていて面白い。刀は、將軍吉宗より拝領の旨を記す書付のある朱銘三原の刀が展示されていた。漆黒の献上拵が付されている。

この城址が見事なのは、築城の時と全く同じ姿で残っていることです。そして明治五年(一八七二)の払い下げの時も、一度は落札者が決定するも払い下げを取り下げた通達が出され、同八年に「高岡公園」として指定された(後に「高岡古城公園」と改称)。

いやいや、全く縁もゆかりもない地方都市にこれほどの歴史があるとは、小生も驚きました。ぜひ一度、五月一日に高岡御車山祭に行かれることをお勧めします。(持田具宏)

しかし、広次や次広について刀剣書を開くと、彼らについての情報はきわめて少ない。彼らは、相模のどこで作刀していたのだろうか。これも疑問である。「鎌倉に決まっているじゃないか」と言われるかもしれないが、享徳に鎌倉公方が関東管領と対立を深めて、北関東の古河に本拠地を構えて以降、鎌倉はさうやら廃れたらしい。そんなところに住み続けて、鍛刀するのだろうか…。いろいろ疑問は尽きない。

一方、昨今、関東戦国史の研究は盛んである。末相州の活躍した文明から永正ごろ、最も躍動した武将といえは、小田原の北条早雲。これも早雲という呼び名の適否、彼の出自について、関東での勢力の拡大の実態について、かなりこのまじり研究は進んでいる。末相州や駿河島田鍛冶の研究に関東戦国史の成果は不可欠であろう。

太田道灌、そして彼と智謀と軍略を競った長尾景春、古河公方と

# 甲冑の話題

(二社)日本甲冑武具研究保存会

3

今回は、一般社団法人日本甲冑武具研究保存会の支部活動の一部をご紹介します。

当会には本部のほか、東海支部・近畿支部・岡山支部・広島支部・海外支部の五つの支部があります。その年にもよりますが、各支部において近隣の博物館・資料館での甲冑等の展示会に協力しています。

その中で今回は、近畿支部が出席協力している九度山・真田ミュージアム企画展「兜・戦いのデザイン」をご紹介します。この企画展は本年四月三日(水)から来月三月二十九日(日)まで開催されています。展示は、戦国時代の末期から江戸時代前期にかけて製作された兜を中心に構成され、さまざまなデザインの兜や付属する飾り(立物等)、装いの武具や甲冑に関する史料をお楽しみいただけます。

二カ月ごとに展示替えを行い、現在は第三期を開催中。展示品の図録も発行されています。ご希望の方は九度山・真田ミュージアムへお問い合わせください。

第三期は十月六日(日)まで、第4期は十月九日(水)から、以下二カ月間ずつ来年度の三月末までの六期間にわたり開催します。

九度山・真田ミュージアムは、関ヶ原合戦後、配流された真田昌幸・信繁(幸村)父子が生活した屋敷跡に建てられた善名院(真田庵)のほど近くにあり、

同町には世界遺産の町石道(慈尊院・丹生官省符神社境内含む)と黒河道があり、これらは「紀伊山地の霊場と



参詣道」の一部として登録されました。また九度山町は柿の名産地としても名高く、日本一と言われる富有柿は十一月に収穫されます。

ミュージアムを訪れた際にはぜひ周辺の史跡にも足を運び、当地の歴史を体感ください。新しい発見があるに違いありません。

九度山・真田ミュージアム 〒648-0101 和歌山県伊都郡九度山町九度山一四五二-四〇七三六-五四二七二七 <https://www.kudoyama-kankei.jp/sanada/>

(一般社団法人日本甲冑武具研究保存会評議員・佐々木亮)

## 刀剣商リレー訪問 30

### 藤田裕介さん (神田藤古堂)

神田藤古堂が今年四月に移転オープンしました。

新しい店舗の場所は、旧店舗から徒歩一分ほどの同じ内神田。神田駅西口商店街を抜け、少し先の小路を左に曲がってすぐ。「刀」の看板がある新しい三階建てビルの一階です。店舗には心接セットがゆとりをもって置かれ、ガラス陳列棚に十振ほどの刀剣類、壁や棚に刀装具や書籍類が並んで目を引きまします。

神田藤古堂は平成十三年に現代表の藤田一男氏が神田で創業し、常に「誠心誠意」をモットーに馴染みのお客さまを増やしてきました。そして今回、息子の裕介さんが主人として営む店舗を任せられ開店しました。

裕介さんは刀剣商になって十年。テレビコマercialや企業パンフレットにも登場した、若手刀剣商としての長身イケメン。スー

ツをきれいに着こなし、謙虚で明るい方です。

取材をしていると、奥から興味をそそる刀や刀装具をタイミングよく出してきて、私に商売を始めました。誠実ですが、商魂もたくましい神田藤古堂の二代目です。

神田藤古堂 〒101-0004 7 千代田区内神田一-二-一〇〇三三-五八一-四四二 営業時間：十一〜十九時(不定休)



新店舗の前に立つ店主の藤田裕介さん

北関東の武将たち、関東管領の上杉氏、これらの間隙を突くようにしながら成長した伊勢宗瑞が、いつの間にか相模國の主となるのである。今回の展示で、何か室町期の相州刀工の研究に役立つ切り口が見つかるのではないかと。

ワクワクしながら展示スペースに行く、享徳、文明など、道灌有縁の年紀の板碑が五基展示され、武士の館跡から出た当時の陶器などが展示されていた。板碑は秩父山の緑の石を塔婆形にし、そこに梵字や施主の名前、年紀を刻した一種の供養塔である。刀の茎にこうした銘文や梵字、神号文字が刻された例が時々あることが思い出された。

日本列島、至るところで発掘調査が日夜行われている。江戸東京博物館ではこうした出土品を整理し、展示するスペースを設けてい

るらしい。今回も、縄文土器や土偶、陶器の破片などが別フロアで展示されていた。今後も折に触れて、勉強させてもらおうと思う。

江戸東京博物館 〒133-0000 015 東京都墨田区横網一-四-一 <https://www.edo-tokyo-museum.or.jp/> (小島ユウ)



威容を誇る江戸東京博物館

刀 銘広次(写真提供/銀座長州屋)



富士山麓 編

今日の俺の行き先の一つ目は富士山五合目。毎年、サイクリング仲間たちと登る。しかし、何が面白くて苦んで上り、怖い思いをして下山して帰るんだらうね。昔は胎内交差点から五合目までの標高差千五百メートルを一時間四十分で登ったが、還暦を迎えた今は二時間以上かかる。

下山後、一人で向かったのは二番目の目的地、富士宮市にある内田義基刀匠の「富士日本刀鍛錬所」だ。去年、夕陽迫る中、道に迷いそうになりながらたどり着いたら、本人不在だったあのレポートの続きを今年こそ届ける。

別荘用造成地とはいえ、刀剣を作るのだから住宅密度は推して知るほど。むしろ内田刀匠を見つけたときにはホッとするとほの寂しさだ。

氏の俺を迎えてくれた時のスタイルは、何と彼が国体出場時の静岡県代表のワンピース型ジャージ。そして鍛錬場入り口には、デスクホイール付きのタイムトラアル用車両が置かれている。

さて、この自転車。グラスゴアのマスターズ世界選手権において二百メートルハロン種目の予選で10秒87というタイムを叩き出し、極東からきたこの小さな内田選手

が世界のライバルたちを震撼させた時の相棒だ。

作刀の話と自転車の話が同時進行していくのは、われわれ二人以外どこにしよう。氏が競技に打ち込んだ時代の部品類を見せてもらうと、そこはもう懐かしのパラダイス。今や世界をリードする日本メーカーが黎明期に作った、格好いいとは言えないヘルメット。自分も使っていたアディアダスのシューズは、ベルギーチャンピオンの名前を冠している。氏の国際感覚を高めたであろう海外のレース。そこでライバルたちと健闘をたたえ合い交換してきたジャージは、全仏代表のもの。これを大切にする氏の人柄も受け止めてきた。

初めて会う人なのに、あっとい

う間に打ち解けていく。一方、現在取り組んでいる作品

は、重ねの厚い室町期の鎧通し、そして自分と同じ名前の今川義元の差料だった左文字。それらの復元に日夜取り組んでいる。

その作業をする頭上には、大きな国旗が掲げられている。また山伏の免状も持ち、予備自衛官としての顔も持つ。この辺は何となく自分との立ち位置の違いを感じるのだが、世界を舞台に戦った内田刀匠がナショナルリズムを強く抱くことは自然なことかもしれない。

それらの作品の完成を待つから、コンクールなどを視野に入れるのだろうか。作刀を語る氏の目の輝きは、コンペティターそのものであり、出品を称賛を受ける日を見据えたかのようだ。

だが、どうしても気にな



内田義基刀匠(左)と筆者

てしまうのは自転車の方。いつかどこかで二人で乗れるといいねと別れたが、ポンプと接続できなかったイタリア製のディスクホイール。それが再度息を吹き返すための協力を、俺は惜しまない。

連絡先 〒418-0102 静岡県富士宮市人穴二〇三二二六 [08010443772](tel:08010443772)

## NEWS & TOPICS

### 日本刀横領の会社代表に最高裁が上告棄却決定

複数の客から預かった日本刀を返却しなかったとする業務上横領と強制執行行為妨害、銃刀法違反(所持)の罪に問われ、有罪判決を不服として上告していた福井市の刀剣類販売・修理会社「勝山剣光堂」代表取締役の勝山智充(50)について、最高裁第一小法廷(池上政幸裁判長)は上告を棄却する決定をした。男を懲役三年、法人としての同社を罰金二十万円とした。二審判決が確定する。

決定は八月二十九日付。判決によると、男は二〇一一年から一四年にかけて、修理や鞘の製作のため三人の客から預かった計二百万円相当の刀身などを横領した。一五年九月の福井地裁による回収の強

制執行に際し、偽って模造刀などを交付し妨害。一六年五月には、金属製弾丸を発射できる鉄砲一丁や軍刀九本、模造拳銃八丁を不法に所持した。

一八年九月の一審福井地裁判決は「司法手続きを軽視する態度は厳しい非難に値する」と指摘。懲役三年(求刑懲役五年)と模造拳銃二丁の没収を言い渡し、銃刀法違反罪に問われた同社に対しても求刑通り罰金二十万円とした。

一九年三月の二審名古屋高裁金沢支部判決も「被害者らに理不尽な対応をした上、司法手続きを軽視するなど態様は執拗かつ悪質。反省態度も見られない」と福井地裁判決を支持した。

催事情報

大阪歴史博物館

〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 ☎06-6946-5728 http://www.mus-his.city.osaka.jp/

特別展「勝矢コレクション刀装具受贈記念 決定版・刀装具鑑賞入門」

勝矢俊一氏(1895~1980)は昭和を代表する刀装具コレクター・刀装具研究者です。没後、そのコレクションは遺族の手に分かれてしまいましたが、平成30年度に俊一氏の次男で大阪府在住の勝矢寛雄氏より、所蔵の刀装具類927点が当館に一括寄贈されました。この展示会は今回の受贈を記念して行うもので、今回の寄贈品の中から選りすぐりの約200点を展示いたします。

今回の寄贈品は、勝矢俊一氏が研究対象として蒐集した刀装具コレクションのおよそ半分ですが、勝矢氏の刀装具に対する研究姿勢を知る上で欠かせない資料的価値があります。かつて勝矢氏はこのコレクションを用いて、自宅を訪れた初学の徒に鑑賞を説いていました。本展示会は、刀装具の魅力を伝え、数多くの鑑賞者を世に送り出した旧蔵者・勝矢俊一氏を範とし、初心者向けに広く刀装具の魅力を伝える企画として開催します。

なお同時開催として、元日本根付研究会会長・渡邊正憲氏寄贈品のお披露目となる「受贈記念・渡邊正憲 根付コレクション」と、勝矢俊一氏と生前交流のあった大阪市無形文化財保持者・阪井俊政氏の作品を紹介する「阪井俊政の刀装具」をコーナー展示で併催いたします。

会期：10月5日(土)~12月1日(日)

太宰府天満宮宝物殿

〒818-0117 福岡県太宰府市宰府4-7-1 ☎092-922-8225 https://www.dazaifutenmangu.or.jp/info/archive/category/3

小企画「神社に奉納された名刀展」

古来、人々は自らにとって最も価値あるものを、願いを込めて大切な節目に神様に奉納してきました。本展では、神社に伝わる刀の中でも特に、奉納された名刀に焦点を当ててご紹介します。

作刀の技術や文化は世界各地に存在していますが、中でも日本刀は一振にかかる工程の複雑さや、刀匠たちの高度な技術力を駆使した精巧な作りから、絶大な称賛と評価を得ています。日本において刀は、武器という側面だけでなく、三種の神器の一つに数えられるように、聖なるもの、信仰の対象でもあり特別な存在でした。文化芸術の聖地であり、令和ゆかりの地でもある太宰府で開催される本展を通して、時代の移ろいの中で、さまざまな変遷をたどった名刀の歴史や伝承はもとより、人々が神様に捧げた刀に託した想いと未来への祈りを感じていただければ幸いです。

会期：7月11日(休)~11月4日(月・休)

岩村歴史資料館

〒509-7403 岐阜県恵那市岩村町99番地 ☎0573-43-3057 https://www.city.ena.lg.jp/machi/culture\_sports/iwamura-shiryoukan/

鮫皮刀剣展

東美濃の小京都、恵那市岩村町において、鮫皮標本9頭のほか、該当する外装、献上鮫、鮫皮の各資料などを特別企画展として開催します。

鮫皮について関心を持たれる方は多いと思いますが、なぜか今まで展示会を聞きませんので、この機会に、刀剣とともに1300年を歩み、時代の荒波を越えてきた無名の鮫たちに、一掬の慈眼をお願いいたします。

鞘鮫の最高峰・梅花皮鮫をはじめ、現代最も多く見られる本鮫、聖武天皇佩刀の亀鮫、大名間で贈答品として使われた献上鮫など、鮫皮ファンには参考となるものです。関連資料として、鮫皮名所図、鮫皮捕獲地図、鮫皮細工道具、鮫皮に似せた柄板、鮫用釣り針など、長年にわたり収集した研究品を初めて公開します。

標高540メートル、歴史の情緒漂う天空の城下町・岩村町から発信する鮫たちの雄姿にぜひ会ってやってください。

会期：11月19日(火)~2月16日(日) (恵那秋水会・松原正勝)

坂城町 鉄の展示館

〒389-0601 長野県埴科郡坂城町坂城6313-2 ☎0268-82-1128 http://www.tetsu-museum.info/

高山一之の世界展一拵・刀装具の美

2018年に日本刀の鞘師としては初めて国の選定保存技術者に認定された高山一之氏が監修・製作した拵22点を展示する。狐ヶ崎、山鳥毛、紅雪左文字、笹丸、獅子王などの国宝や名物の鞘をモチーフに独自の感性を加えたもの。国内外の名品修復・復元に携わってきた現代最高峰の鞘師の技を鑑賞しよう。

会期：8月31日(土)~11月4日(月)

備前長船刀剣博物館

〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966 ☎0869-66-7767 http://www.city.setouchi.lg.jp/token/

特別展「一文字と長船」

備前国で製作された刀剣は備前刀と称され、古来より多くの人々の心をとらえてやみません。この備前刀の中でも、備前国の東部を流れる吉井川の流域で興った一文字派と長船派の作品は特に優れ、国宝や重要文化財に指定されているものが多くあります。この展示では、この二派を通して名将たちを虜にした備前刀の魅力の謎へ迫ります。

会期：9月14日(土)~10月27日(日)

会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。

森記念秋水美術館

〒930-0066 富山市千石町1-3-6 ☎076-425-5700 http://www.mori-shusui-museum.jp/

伝来の名刀一島津家を中心として／薩摩隼人の書と絵画一鯨島白鶴と木村探元の世界

新収蔵品「重要文化財 太刀 銘 吉家作」をこの度初公開します。この太刀は鎌倉時代初期に山城国で活躍した三条吉家の作で、藩政時代には島津家重代の宝物として伝わりました。

同太刀の初公開を記念し、2階鑑賞室において所蔵品展「伝来の名刀一島津家を中心として」を、3階鑑賞室では「薩摩隼人の書と絵画一鯨島白鶴と木村探元の世界」を開催します。

会期：9月1日(日)~11月24日(日)



星と森の詩美術館

〒948-0101 新潟県十日町市稲葉1099-1 ☎025-752-7202 http://www.hoshi-uta-m.jp/02-exhibition/index.html#oono-g

刀匠大野義光 華やかな刃文の世界

大野義光師(1948~)は新潟市(旧黒埼町)に生まれ、大学在学中に刀鍛冶を志し吉原義人・国家両師に入門、備前伝の刀作りを究めていくことになりました。76年、生家近くに鍛刀場を構えて独立。84年には再現が困難とされる備前福岡一文字派の国宝の太刀《山鳥毛》の写しを完成させ、一躍脚光を浴びました。鎌倉時代中期の備前鍛冶が作り出した華やかな丁子乱れに迫る、やわらかな匂口の刃文。代表作《山鳥毛》写しを交え、現代刀工最高峰の一人と評される大野師の作を2期に分け、計17口展示します。

会期：2019年8月2日(金)~10月6日(日)



大分県立美術館

〒870-0036 大分市寿町2-1 ☎097-533-4500 http://www.opam.jp/

日本の美意識—刀剣と金工—

日本独自の技術で作られた日本刀。古来より武士の精神を象徴するものとされ、近年ではその独自の美に人気が高まっている。本展では、日本各地の名刀に加え、実用刀として高い評価を得た地元・大分の豊後刀も紹介する。併せて鐔をはじめとする刀装具や精巧な金工品を通して、日本が誇る工芸技術の粋と伝統的な美意識に触れる機会を提供する。

会期：9月27日(金)~10月22日(火)



太刀 銘 豊後国行平作(大分県指定文化財) 大分県立歴史博物館

関西大学博物館

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 ☎06-6368-1171 http://www.kansai-u.ac.jp/Museum/ hakubutsukan@ml.kandai.jp

2019年度関西大学博物館ミュージアム講座「かたなについてのいろいろ」

日本の刀剣文化は、古墳時代の刀剣から始まり、反りのある日本刀が現れて興隆期を迎えます。開国、近代国家の成立を経て、太平洋戦争敗戦後、刀剣は社会的な使命を終えますが、今も美術刀剣として現代刀匠の手により、かたな(日本刀)は鍛え続けられています。

今回の関西大学ミュージアム講座では、日本の「かたな」についてのいろいろを、3名の講師の先生からお話いただきます。

第1回：10月12日(土) 内藤直子(大阪歴史博物館学芸員)

「日本刀を見る—鑑定と鑑賞」

第2回：10月19日(土) 高見國一(刀匠)「刀匠として日本刀を鍛える」

第3回：10月26日(土) 深谷淳(名古屋市文化財保護室)

「藤ノ木古墳出土の原「玉纏太刀」をめぐる諸問題」

会場：関西大学千里山キャンパス 関西大学博物館・簡文館セミナー室

受講者数：各回50名 受講料：無料(事前にメール等で申込み)

日本橋高島屋S.C.本館6階美術画廊

東京都中央区日本橋2-4-1 ☎03-3211-4111

光抱いて—刀工 宮入小左衛門行平展

卓越した伝統技術と感性が生み出す最新作を、展示・販売します。一門の川崎晶平・河内一平・根津秀平・上山輝平各刀匠の作品を賛助出品予定。ギャラリートークは11月23日(土)午後3時から会場にて。

会期：11月20日(水)~26日(火) 午前10時30分~午後7時30分。最終日は午後4時閉場



致道博物館

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18 ☎0235-22-1199 https://www.chido.jp/

出羽庄内藩主 酒井家名宝

徳川四天王の一人・酒井忠次を祖とする酒井家は、江戸時代初期の元和8年(1622)に藩主として庄内に入部、以来250年間近く庄内地方を領国経営してきました。大名酒井家に伝来してきたさまざまな美術品や工芸品、歴史資料などを展示紹介、展示することが少ない文化財や資料の鑑賞に供するとともに、その時代の歴史文化を考える一助とします。

会期：9月26日(木)~11月4日(月)

